



安全・安心な街づくりを目指す 商店街の挑戦 ～地域コミュニティの核機能の発揮～

川崎市モトスミ・オズ通り商店街振興組合
理事長 柳沢正高



1 取組のきっかけ

当商店街は川崎市中原区にあり、東急東横線・元住吉駅の東口駅前に立地しています。地域内居住者に対し、日常生活の買物の場の機能を果たしてきました。しかしながら、商圈内にスーパーマーケット等の出店が続き、また大型商業施設がオープンするなど、厳しい競争環境にあります。かかる状況下、改めて地元商店街が地域に果たすべき役割を見つめ直していた時に発生したのが、2011年3月の東日本大震災でした。川崎市内でも鉄道が止まり、停電が発生するという非常事態の中で、当商店街では、会員の店が自発的に、帰宅困難者を店内に受け入れ、また街にあふれる人に、炊き出しで「おにぎり」を配るという行動を取りました。この経験を教訓に、従来から地域コミュニティの核の役割を果たしてきた地域密着型商店街には、防災や災害対応において、担える役割が多くあると考え、「安全・安心な街づくり」を開始したのです。

2 地域内連携を基盤とした訓練

取組の原動力となったのは、これまでも、地域に根付いた活動を展開してこ

中で、町会や小学校・大学、関連機関など、多様な先とつながりを有し、連携の基盤があったことです。

この連携基盤の下での取組の1つが、近隣小学校4年生を対象とした「街なか安全教室」の実施です。街なかで災害等の危険に遭遇した際に、近くの店に駆け込み助けを求めるといった非常時の行動を、子ども達に教えるもので、毎年度、授業時間内に2時間程度を使って実施しています。小学校から街を通りながら商店街に向う途中、ポイント、ポイントで災害時対応の知識を学びます。さらに商店街到着後は倒れている人の救助や実際に商店に入って店の人とコミュニケーションを取ることを実践するというもので、これまで4回実施しました。

さらに、2013年には町会と連携し、大地震が発生したとの想定の下での避難訓練を実施しました。予め決めておいた商店街内の2か所の集合場所に集まり、そこから避難場所となっている公園へ警察の誘導の下で移動し、避難経路を確認しました。さらに公園では、消防署にも協力を得て、起震車体験、スモークマシンでの煙体験、救急救命、消火訓練を実施し、地域内の災害対応力の強化を図りました。



小学校と連携して「街なか安全教室」を開催

3 商店街内の安全・安心強化

商店街自身の災害対応力を高めるために、まず行ったことは、会員店に「懐中電灯・ラジオ」を備えることでした。東日本大震災発生時の停電の経験から、非常時でも商店街に行けば明かりと情報があるという安心な環境を整備することを目指したものです。さらに、商店街に来街した人が命の危険にさらされた時に、瞬時に対応が図れるよう、商店街の主催により、消防署・



消防団の方を講師として「救急救命講習会」を開催しました。商店街の会員店も参加して、市民救命士証の交付を受け、いざという時に対応できる人を街なかに配置することができます。



商店街が主導して避難訓練を実施



商店街会員が市民救命士証を取得



した。人の集まる場を運営する商店街として、安全・安心のために出来ることを一歩ずつ進めています。

4 地域ぐるみの意識醸成とこれから

これら商店街の取組を伝えるとともに、防災・減災の情報や知識を地域に発信するために、これまで『安全ぶっく』を3回に渡り発行してきました。避難場所や避難所、給水拠点などや、地震被害想定調査結果マップを掲載するとともに、商店街内のAED設置場所や、市民救命士証を取得した人のいる店などの情報も載せています。また、東日本大震災被災地支援として、商店街イベントでの東北物産販売や、被災地から神奈川県内に避難してきた児童や家族の元気づくりなどにも取り組んできました。今後も地域コミュニティの核として、日常における防災・減災拠点の役割を果たし、地域ぐるみの「災害への備えの意識醸成」に貢献していきたいと考えています。

